

病害虫発生予察注意報第1号

病害虫名：モモせん孔細菌病

1 発生予想 モモせん孔細菌病が今後多発する恐れがある。

2 対象地域 県下全域

3 根拠

- (1) 4月下旬の巡回調査において、モモせん孔細菌病の春型枝病斑が調査ほ場10地点のうち8ほ場で発生がみられ、発病枝率も多発した平成28年の1.9%より高い5.4%であった。
- (2) 昨年のモモせん孔細菌病の発生は平年並みであったが、9月以降に強風をもたらした台風等の影響により秋季感染が多くなり、越冬伝染源である春型枝病斑が多くなったと思われる。
- (3) 今後の気象経過にもよるが、伝染源の春型枝病斑が多いため、葉や果実被害が多発すると考えられる。

表1 4月下旬のモモせん孔細菌病の春型枝病斑の発病枝率 %

年	佐久市 上平尾	小諸市 三岡	豊丘村 河野	波田町 三溝	安曇野市 三郷	長野市 川田	長野市 川中島	小布施町 吉島※	中野市 新井	山ノ内町 平穂
平成28年	1.3	0	0	0	0.6	4.7	4.0	0.5	3.3	4.7
平成29年	0	0	0	0	0	1.3	2.7	0	0.7	0.7
平成30年	13.0	0	10.0	0	3.0	16.0	3.0	2.0	1.0	6.0

※平成29年に須坂市相之島から変更

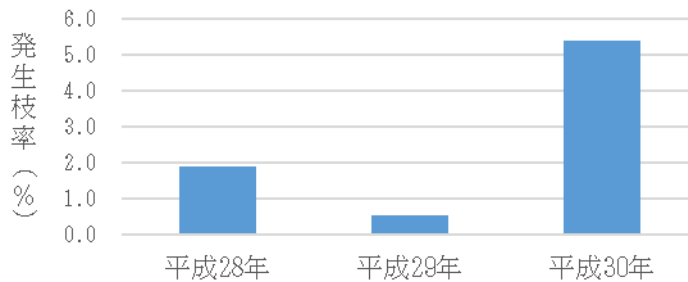


図1 春型枝病斑の発生枝率（10地点平均）



図2 春型枝病斑

4 防除対策と留意点

- (1) 園地を見回り、春型枝病斑をみつけたら健全な1芽を含めてせん除し、ほ場外へ持ち出すか埋却などの処理を行う。
- (2) 発生が多く見込まれる園地では、落花後から10日おきに2回アグレプト液剤・水和剤の1,000倍液、アグリマイシン-100の1,500倍液のいずれかを散布する(表2)。なお、これらの剤はストレプトマイシン耐性菌出現のおそれがあるので注意する。また、早生種では、使用時期に注意する。
- (3) 5月下旬に多発している場合は、7月中旬までチウラムフロアブル(チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル)500倍液、バリダシン液剤5の500倍液、デランフロアブル600倍液、マイコシールド1500倍液のいずれかを散布する(表3)。
- (4) 葉の病斑や春型枝病斑がみられた園では、果実への感染防止を図るため、早めに袋掛けを実施する。
- (5) 春型枝病斑のせん除や袋掛け等の耕種的防除対策は、風当たりの強い園地など、せん孔細菌病が発生しやすい場所から実施する。
- (6) 薬剤を選択する際は、使用時期(収穫前日数)や使用回数等の登録内容を遵守する。また、同一薬剤の連用は耐性菌の出現のリスクがあるので、連用せずにローテーションで使用する。
- (7) 散布予定日に降雨が続くと予想される場合、防除は前倒しで行うなど薬剤の散布間隔はあかないように注意する。
- (8) ネクタリンも、ももに準じて耕種的防除対策を実施する。薬剤防除については、落花後から10日おきに2~3回マイコシールド1,500倍液を散布し、6月上旬以降多発している場合は7月上旬までチウラムフロアブル(チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル)500倍液、デランフロアブル600倍液のいずれかを散布する(表4)。なお、アグレプト液剤・水和剤、アグリマイシン-100はネクタリンに使用できないので注意する。

表2 モモせん孔細菌病に対する防除薬剤(ネクタリンを除く) JPPネット 2018年5月1日確認

農薬名	FRACコード	希釈倍数	使用方法	使用時期	使用回数
アグレプト液剤・水和剤	25	1,000	散布	収穫60日前まで	2回以内
アグリマイシン-100	41+25	1,500	散布	収穫60日前まで	2回以内

平成30年農作物病害虫・雑草防除基準より

注1) アグレプト液剤・水和剤はストレプトマイシンを含んでいる。

注2) アグリマイシン-100はオキシテトラサイクリンとストレプトマイシンの混合剤であるので使用回数に注意する。

表3 モモせん孔細菌病に対する防除薬剤(ネクタリンを除く) JPPネット 2018年5月1日確認

農薬名	FRACコード	希釈倍数	使用方法	使用時期	使用回数
チオノックフロアブル	M3	500	散布	収穫7日前まで	5回以内
トレノックスフロアブル	M3	500	散布	収穫7日前まで	5回以内
バリダシン液剤5	U18	500	散布	収穫7日前まで	4回以内
デランフロアブル	M9	600	散布	収穫7日前まで	4回以内
マイコシールド	41	1,500	散布	収穫21日前まで	5回以内

平成30年農作物病害虫・雑草防除基準より

注1) チオノックフロアブルとトレノックスフロアブルはチウラムを含んでいるので、使用回数に注意する。

注2) デランフロアブルは展着剤のアプローチBI、ニーズを使用すると薬害を生じるので使用しない。

注3) マイコシールドは薬剤耐性菌出現のおそれがあるので注意する。

注4) マイコシールドはオキシテトラサイクリンを含んでいる。アグリマイシン-100も同成分を含んでいるので使用回数等に注意する。

表4 ネクタリンせん孔細菌病に対する防除薬剤 JPPネット 2018年5月1日確認

農薬名	FRACコード	希釈倍数	使用方法	使用時期	使用回数
マイコシールド	41	1,500	散布	収穫28日前まで	5回以内
チオノックフロアブル	M3	500	散布	収穫30日前まで	5回以内
トレノックスフロアブル	M3	500	散布	収穫30日前まで	5回以内
デランフロアブル	M9	600	散布	収穫14日前まで	2回以内

平成30年農作物病害虫・雑草防除基準より

注1) マイコシールドは薬剤耐性菌出現のおそれがあるので注意する。

注2) チオノックフロアブルとトレノックスフロアブルはチウラムを含んでいるので使用回数に注意する。

注3) デランフロアブルは展着剤のアプローチBI、ニーズを使用すると薬害を生じるので使用しない。

長野県病害虫防除所
 中島賢生(所長) 堀道広(担当)
 TEL: 026-248-6471(直通)
 FAX: 026-248-6473
 Eメール: bojo@pref.nagano.lg.jp
<http://www.pref.nagano.lg.jp/bojo/>